

上記の言葉を残した賢者「コヘト」をはじめとする旧約聖書の賢者たちの思想を研究しました。

何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。

・・・神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思ふ心を人に与えられる。

同じコヘトの残した言葉です。「すべてを時宜にかなうように造られる」神を信じることによって、挫折や失敗の経験も意義あるものとして生かすことができるようになります。理学部で物理学を学んでもものならず、文学部に移ったのですが、そこで改めて科学論・科学哲学を学び直し、大学の共同研究に参加して初めての著書（共著）を出すことになりました。最初に科学を学んだことは、現代世界の具体的な問題と関わりながら思索を進めるためにも大いに役立っています。「宗教は非科学的だから信じない」という人も多いようですが、両

者をきちんと学んでみると、案外深いところで結びついていることがわかります。自分が生きている世界を根本から理解したいという動機や、意味ある連関を求める思考法は両者に共通しています。しかも、そうした説明の手段を複数持つことでその人の世界観は格段に豊かになるのです。アルバート・アインシュタインを始め有名な科学者の中に、敬虔な信仰者がしばしば見られることも不思議ではありません。

名声は香油にまさる。死ぬ日は生まれる日にまさる。

甲いの家に行くのは、酒宴の家に行くのにまさる。そこには人皆の終りがある。命あるものよ、心せよ。

大学院の修士課程を終えた後、神学校に進み、牧師になりました。具体的な人との関わり、実践の中で、大学での研究以上に豊かで深い経験を得ることができました。とりわけ、牧師として人生の最後に関わることは、つらいけれども尊い経験でした。

一人の人生の重さ、尊さをその都度教えられてきました。世界に何十億人いようと、一人として同じ人生はない。当たり前のことのようですが、一人ひとりの人生と関わり、臨終に立ち会い、家族や親しい方々と一緒にお送りする度に、二つと無い人生、二人といない人格の大切さを実感させられてきました。それぞれがそれぞれに尊くかけがえない存在であること。私たちが造られた神様はそれ以上に、一人ひとりを大切な、かけがえない存在として見つめておられるでしょう。

疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。

イエス・キリストの有名な言葉です。天の万物を造り、私たちを愛し見つめておられる神様がおられる。それだけではなく、神はイエス・キリストを通して私たちに現れ、語りかけ、招いておられる。それが聖書の教えの中心です。私はこの教えによっ

